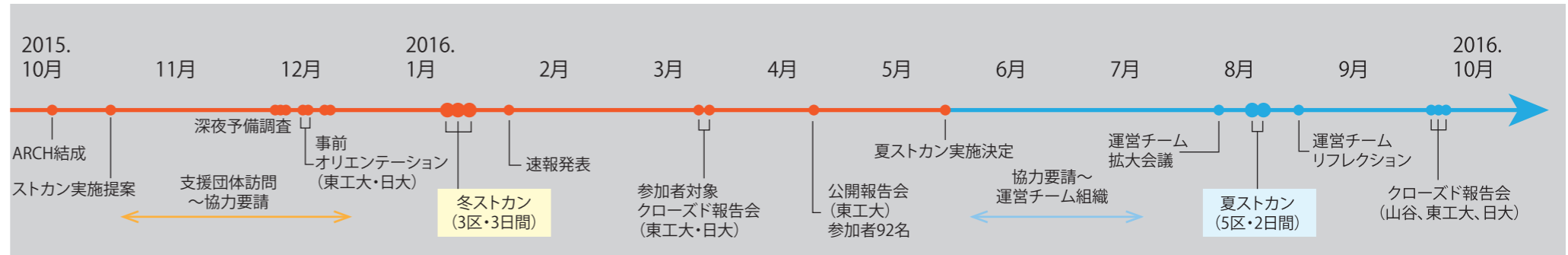


2016東京ストリートカウントプロジェクトの流れ



2016東京ストリートカウント プロジェクト報告書《簡易版》

ストリートカウントプロジェクトでは、当日の調査以外に予備調査や事前オリエンテーション、参加者対象のクローズド報告会や公開報告会などで、多くの人々と出会ってきた。第2回の夏ストカンでは第1回に比べ調査規模も大きくなり、協力してくれる人の数も大きく増えた。各報告会では、多くの市民と一緒に問題意識を分かち合い、共に考え、議論した。ストカンを通して、ホームレス問題を共に考える市民の輪がこうして広がっていくことを期待している。

【事前オリエンテーション】
初ストカン前にシミュレーション。
2016年1月7日



【冬ストカン調査中】
極寒の中多くの人が野宿していた。
2016年1月



【冬ストカン公開報告会】
92名の参加やメディア取材を受けた。
2016年4月10日



【クローズド報告会】
ストカン参加者約30名で意見交換。
2016年9月29日

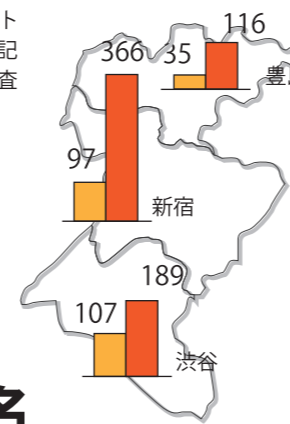


アウトカム～実態調査としての結果

《冬夏ともに都による昼間調査の2.8倍の路上生活者人口を確認》

冬ストカン(1月)

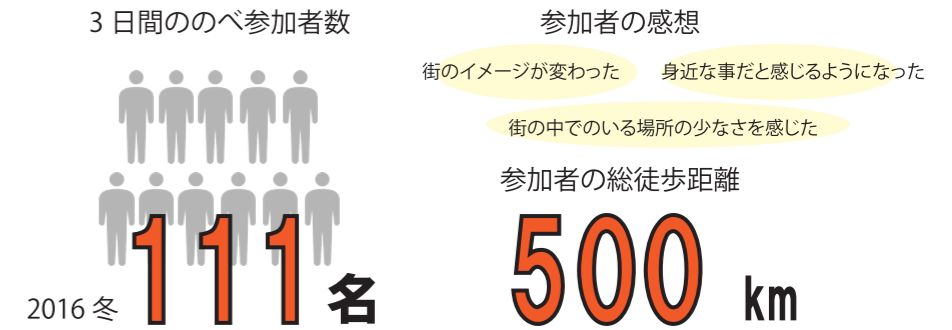
2016年1月12日～14日の3晩で行われた冬のストリートカウントでは、3区合計で671名の方が記録された。同時期に行われた東京都による調査結果の約2.8倍だった。



ソーシャル・インパクト～市民参加としての結果

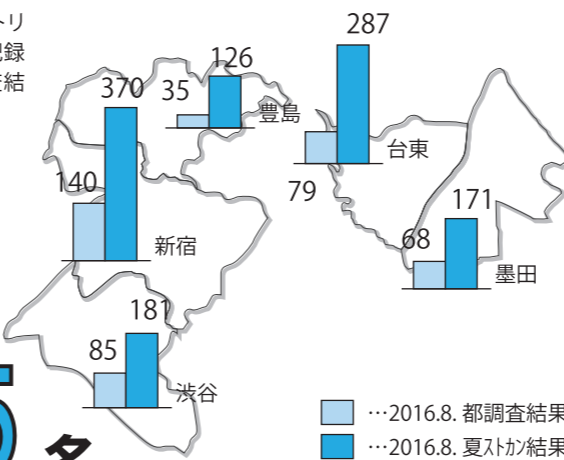
《冬111名・夏171名の参加、多くの市民のエネルギーが投じられた》

冬のストリートカウントには3日間でのべ111名、実数82名のボランティアが参加した。参加者が歩いた総徒歩距離は約500km(東京-京都間に相当)だった。多くの市民エネルギーが投入され、参加者の中には「街のイメージが変わった」「身近な事だと感じるようになった」など意識の変化があった方もいた。

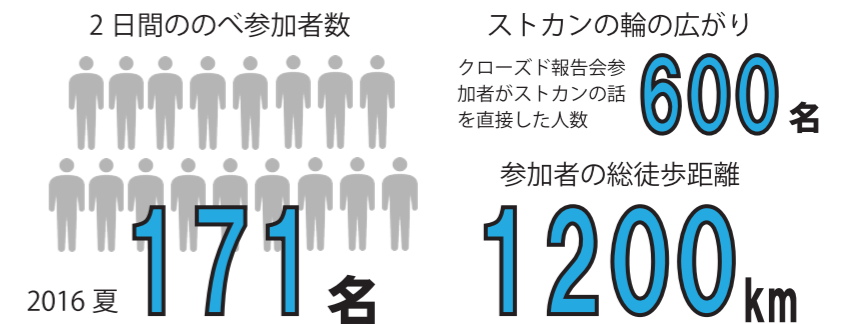


夏ストカン(8月)

2016年8月2日、3日の2晩で行われた夏のストリートカウントでは5区合計で1135名の方が記録された。同時期に行われた東京都による調査結果の約2.8倍だった。



夏のストリートカウントには、2日間でのべ171名、実数134名のボランティアが参加した。参加者が歩いた総徒歩距離は約1200km(東京-福岡間に相当)だった。冬のストリートカウントより参加者も増え、投入された市民エネルギーも大きく増加した。クローズド報告会に参加した40名に、ストカンの話を何名にしたかを聞いたところ約600名へストカンの輪がひろまったことがわかった。



東京ストリートカウントとは

東京ストリートカウントは2016年1月に初めて東京で実施した、市民参加型の夜間路上ホームレス人口調査です。2016年8月には第2回を開催し、東京都が昼間に行う路上生活者概数調査では捉える事の出来ない夜間の実態を明らかにしました。このような調査はシドニーやロンドンなど海外の都市で行われており、多くの市民が参加しています。ARCHでは、市民参加で調査を実施することにより、東京ストリートカウントをきっかけとしてホームレス問題を自分達の住むまちの問題として気づき直し、市民のみならずと共に取り組んでいくことができるのではないかと、考えています。

主催：ARCH(Advocacy and Research Centre for Homelessness)
2016夏・東京ストリートカウント運営チーム(8月)



2016東京ストリートカウントの意義と今後

《ホームレス問題を介し優しさがつながる都市に》

「2016 東京ストリートカウント」は、ホームレス状態に向き合い、取り組み続ける社会への第一歩として実施しました。

既存の昼間調査を補完するための夜間調査は、より実態に即したホームレス支援の政策を立てる上で今後も継続的に行う必要があるでしょう。

同時に、市民参加型であるという点に注目すると、ストリートカウントは自分たちの住むまちの中に存在する「ホームレス状態」の実態を知り、それについて話し合うという、市民の輪を広げていく活動であるといえます。2回の調査とその準備や報告会を通して、様々な立場の市民の方の協力を得、考えや感想を共有し、参加の輪が広がり、新しいつながりが生まれました。一連のプロセスは、市民の方々がどのようにホームレス状態に関わっていくことができるかを自分自身で考えるひとつの契機になったのではないのでしょうか。

これは、今はまだ草の根の活動でも、東京が「優しい都市」となるための確かな一歩です。今後もこうした市民の輪を広げていくことで、ホームレス状態を介してそこに住む人々が優しいつながりを持つことができると考えます。

最後に、本プロジェクトにご協力くださった全ての方に感謝申し上げます。



(写真左)
4月の公開報告会での意見交換。ホームレス問題を介した優しいつながりをつくることを提案した。

(写真右)
9月のクローズド報告会では、参加者とストリートカウントによるつながりをマッピングしてその広がりを確認した。

ARCHについて



ARCH (Advocacy and Research Centre for Homelessness)は2015年10月に研究者や学生、現場ワーカー、プロボノワーカーなどで設立しました。国内外でのホームレス支援政策や取り組みを共同研究してきたメンバーを中心に設立され、現在は東京圏において研究とアドボカシー活動(政策提言)を行っています。東京圏のホームレス支援に関わるセクター全体がより良い方向に進み、連携などが強化されるよう働きかけることを目的としています。

私たちは、東京五輪・パラ五輪を中期的なマイルストーンと捉え、2020年までに東京がホームレス状態に対して皆が見守ったり助け合ったりできる、優しい都市となることを目指しています。五輪・パラ五輪のような大規模イベントは、社会的・経済的に弱い立場にある人々にネガティブな影響を与え得る反面、過去の開催都市の中には後の社会に続くポジティブなレガシーを遺した都市も存在します。東京でもレガシーを遺すことができるよう、働きかけていきます。

ARCH共同代表 北島拓也・河西奈緒

調査の概要

《冬:3区で3日間・111名、夏:5区で2日間・171名による深夜調査》

調査は、2016年1月の3日間、および8月の2日間の、終電後から始発までの深夜帯に実施。1月のストリートカウントではのべ111名、8月はのべ171名のボランティアが参加。参加者は各班分かれ、道路、公園、駅、河川、各施設などを調査した。調査の詳細は以下に示す。

	冬ストカン(1月)			夏ストカン(8月)	
実施日程	1月12日	1月13日	1月14日	8月2日	8月3日
対象区	渋谷	新宿	豊島	台東・墨田	渋谷・新宿・豊島
参加人数	35名	41名	35名	65名	106名
天候	晴れ			曇りのち雨	曇り
調査手法	目視による確認調査				
調査対象	路上や公園などで寝ている人。調査時に寝ていないが路上生活しているとみられる人。				
記録方法	記録シートに下記項目を、各班のエリアマップに時間と場所を記入。				
記録項目	<ul style="list-style-type: none"> ・時間、場所 ・場所分類(道路、公園、駅、河川、公共施設、その他施設) ・野宿の状態(固定型、移動型、その他) ・特徴や状況 ・性別(男性、女性、不明) 			<ul style="list-style-type: none"> ・時間、場所 ・場所分類(道路、公園、駅、河川、公共施設、その他施設) ・野宿の状態(常設、仮設、その他) ・特徴や状況 ・性別(男性、女性)※不明の場合は記入しない 	
班編成	徒歩:7班 車:2班	徒歩:8班 車:2班	徒歩:7班 車:2班	徒歩:11班 車:2班	徒歩:24班 車:1班

※夏ストカンでの野宿の状態分類「仮設」「その他」は各班によって判断に揺れがある。

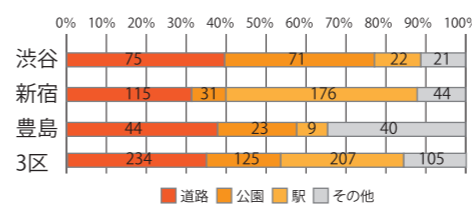
調査の結果

冬ストカン(1月)

【各区結果】

	a)ストカ結果	b)都調査	a/b)比率
渋谷区	189名	107名	1.77倍
新宿区	366名	97名	3.77倍
豊島区	116名	35名	3.31倍
3区合計	671名	239名	2.81倍

【寝場所の分類別 集計】



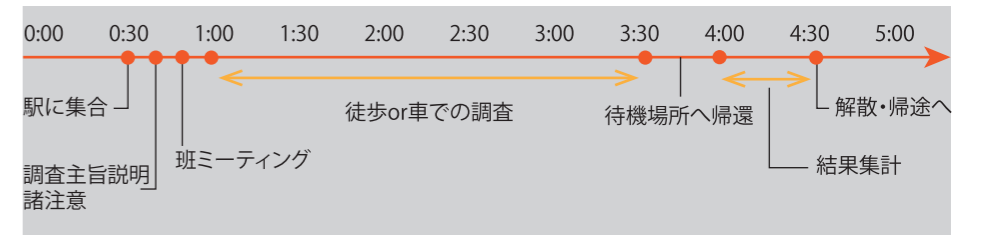
2016年1月に実施したストカ結果と、同時期の東京都による概数調査の結果を比較した。

寝場所の分類別の3区の集計結果。3区合計では、道路、駅、公園、その他の順に多い。区別では渋谷区で公園の割合が、新宿区で駅の割合が、豊島区でその他の割合が大きい。各区の駅や公園など空間的要素の影響があると考えられる。

調査当日の進め方

《深夜に集合し終電後の街をくまなく歩いて調査》

調査当日、ボランティア参加者は深夜0:30に集合場所に集合。本部から説明を受け、各班に分かれてルート等を確認。徒歩班は各班ごとに割り当てられたエリアを、2~3時間かけてくまなく調査した。調査後は待機場所に帰還し、その場で結果を集計し、共有した。

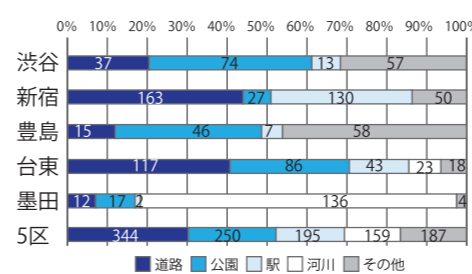


夏ストカン(8月)

【各区結果】

	a)ストカ結果	b)都調査	a/b)比率
渋谷区	181名	85名	2.13倍
新宿区	370名	140名	2.64倍
豊島区	126名	35名	3.60倍
台東区	287名	79名	3.63倍
墨田区	171名	68名	2.51倍
5区合計	1135名	407名	2.79倍

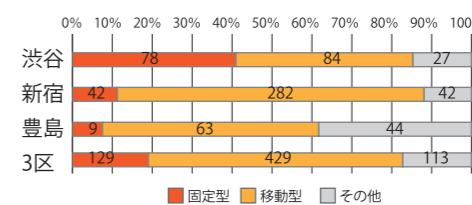
【寝場所の分類別 集計】



2016年8月に実施したストカ結果と、同時期の東京都による概数調査の結果を比較した。中でも豊島区、台東区で概数調査の3.6倍の方が野宿状態であった。

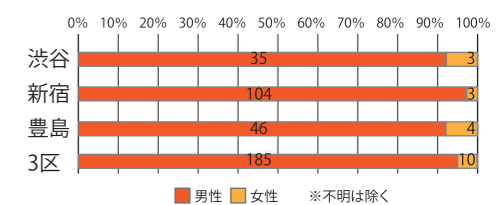
寝場所の分類別の5区の集計結果。各区によって特徴がある。渋谷区や豊島区で公園の割合が新宿区や台東区では道路の割合が高い。墨田区では河川の割合が8割近くを占めている。

【野宿の状態別 集計】



野宿の状態を「固定型(常設の小屋やテント等)」「移動型(仮設の段ボール等)」「その他(歩いてる等の寝ていない人)」とした。各区、3区合計共に移動型が最も多い。渋谷区は、他2区に比べて固定型の割合が多い。

【性別による集計】



夜間の目視調査のため性別の判断ができず不明と記録された人が多かったが、性別の判断が可能だった人達についてグラフ化したものである。3区ともに男性の割合が9割以上を占めた。

2016年東京ストリートカウント・プロジェクト報告書《簡易版》

2016年10月25日作成

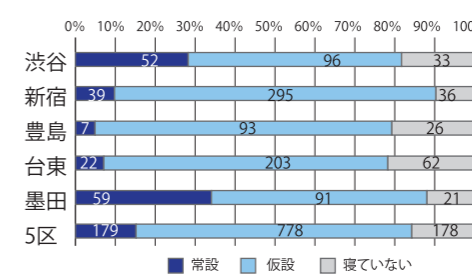
<制作> ARCH(Advocacy and Research Centre for Homelessness)
北島拓也 青山優
協力:東京工業大学 環境・社会理工学院 土肥研究室

<連絡先> arch.cd.office@gmail.com
東京都目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学 W9-85

<リンク> ARCHウェブサイト: <http://archcd.wixsite.com/arch>
土肥研究室ウェブサイト: <http://www.soc.titech.ac.jp/~dohi/>

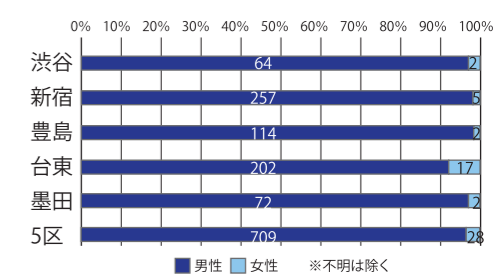
本報告書: <http://archcd.wixsite.com/arch/tokyo-street-count>

【野宿の状態別 集計】



野宿の状態を、「常設(常設の小屋やテント等)」「仮設(仮設の段ボール等)」「寝ていない」として記録。常設の割合が他の区と比べて大きいのは渋谷区と墨田区であった。

【性別による集計】



冬の調査と同じく不明と記録された人が多かった。また、女性の割合が他の区と比べて台東区では高い割合となっている。